

研究集会"日本における地震発生予測検証実験(CSEP-Japan)"

日時: 2017年11月1日(水) - 2日(木)

場所: 統計数理研究所 セミナー室1(D305)

プログラム

11月1日(水)

- 座長 鶴岡
- 13:05-13:15 開会の挨拶 平田 直 (東大地震研)
- 13:15-13:45 Hi-net 自動震源処理カタログを用いたリアルタイム余震活動予測システム
 - 近江崇宏(東大生産研)*, 尾形良彦(統数研), 汐見勝彦(防災科研), Bogdan Enescu(京大), 澤崎 郁(防災科研), 合原一幸(東大生産研)
- 13:45-14:15 JMA カタログから推定された前震の特徴抽出
 - 溜瀧功史(気象研)
- 14:15-14:45 BPT 更新過程における変動係数 α の推定方法について
 - 野村俊一(統数研)

休憩 14:45-15:00

- 座長 野村
- 15:00-15:30 地震マグニチュードの予測と評価について
 - 尾形良彦(統数研・東大地震研)
- 15:30-16:00 応力空間パターンのベイズ推定: 2000年鳥取県西部地震の余震データへの適用例
 - 岩田貴樹(常磐大)
- 16:00-16:30 震源メカニズム分布の時間変化を用いた巨大地震発生域の応力場時間変化の推定
 - 松川滉明(筑波大)*, 笠原天人(無所属), 八木勇治(筑波大), Bogdan Enescu(京大)

休憩 16:30-16:45

- 座長 鶴岡
- 16:45-17:15 日本の地震活動の季節変動性
 - 上田 拓(東大地震研)*, 加藤愛太郎(東大地震研)
- 17:15-17:45 熊本地震前後の地震活動について
 - 熊澤貴雄(統数研)*, 尾形良彦(統数研), 鶴岡 弘(東大地震研)
- 17:45- ビジネスミーティング

11月2日(木)

- 座長 熊澤
- 9:00-9:30 トンガ・ケルマディック海溝で発生するプレート境界型地震と潮汐との関係(その2)
 - 弘瀬冬樹(気象研)*, 上垣内修(気象庁), 前田憲二(気象庁)
- 9:30-10:00 中規模繰り返し相似地震に対する長期的発生予測
 - 田中昌之(気象研)*, 岡田正実(気象研)
- 10:00-10:30 Modeling and forecasting the seismicity in the Kanto region by using a 3D-hypocenter ETAS model
 - 郭一村(Yicun Guo)(東大地震研)

休憩 10:30-10:45

- 座長 弘瀬
- 10:45-11:15 相似地震発生域におけるb値の特徴について
 - 五十嵐俊博(東大地震研)
- 11:15-11:45 Implementation of the finite source ETAS model in CSEP
 - 庄建倉(Jianchang Zhuang)(統数研)*, 郭一村(Yicun Guo)(東大地震研)
- 11:45-12:15 Statistical modeling of earthquake temporal occurrences incorporating seismo-magnetic data
 - 韓鵬(Peng Han)(中国・南方科技大学)*, 庄建倉(Jianchang Zhuang)(統数研), 尾形良彦(統数研), 服部克巳(千葉大)

昼食 12:15-13:00

- 13:00- ビジネスミーティング
- 13:00-13:20 CSEP-Japan 結果報告
 - 鶴岡(東大地震研) & CSEP-Japan